

早期発見のための「フットケア」から、足を守る「フットウェア」への取り組み

医) 社団つばさ つばさクリニック

○椿井 裕恵 城和 美穂子 渡邊 晃矢 内田 広康  
 大山 恵子 諸見里 仁 大山 博司

【はじめに】当クリニックでは2004年よりフットケアに取り組み、足病変の早期発見や感染予防及び患者自身のセルフケアに対する意識向上に成果を上げきた。しかし糖尿病患者や長期透析患者の増加により、現行のフットケアのみでは患者の足を守ることは些か困難な状況であり、歩行による荷重や不適切な靴の着用により、容易に足トラブルを発症する例も少なくない。そこで足の歪みを補正し、歩行時の足への圧力の免荷や摩擦を回避、胼胝の予防など、足の保護に効果的と思われるフットウェア作製に取り組んだ。

【方法】まず医師を含めたスタッフ24名全員がフットウェアを作製する専門機関の勉強会に参加し、製作工程の体験などを通じてフットウェアの効果や重要性を認識した。その後、通院透析患者を対象にフットウェア見学会を開催、義肢装具士による説明とフットウェアを実際に見て、その効果・重要性について理解を促した。

その後フットウェア作製を目的としたフットウェア外来を月に2回のペースで開設した。

**フットウェア作製への取り組み**

- 2011年9月 フットサポートセンター担当者によるフットウェアの院内勉強会
- 2011年9月～11月 透析室スタッフ全員がフットサポートセンターへ見学、フットウェア作製工程を体験
- 2011年12月 クリニック内でのフットウェア展示会と足の相談会開催
- 2012年2月～3月 クリニック内でのフットウェア外来開設(隔週5回)

**フットウェア作製工程 (約1.5ヶ月)**

足部疾患の医師の診断 (2週間) → 義肢装具士による足底圧測定・採型 (2週間) → フットウェアのフィッティング・調整お渡し、代金支払い (2週間)

1回目: 義肢装具士による足底圧測定・採型

2回目: フットウェアのフィッティング・調整お渡し、代金支払い

医師による装着確認 意見書・装着証明書にサイン

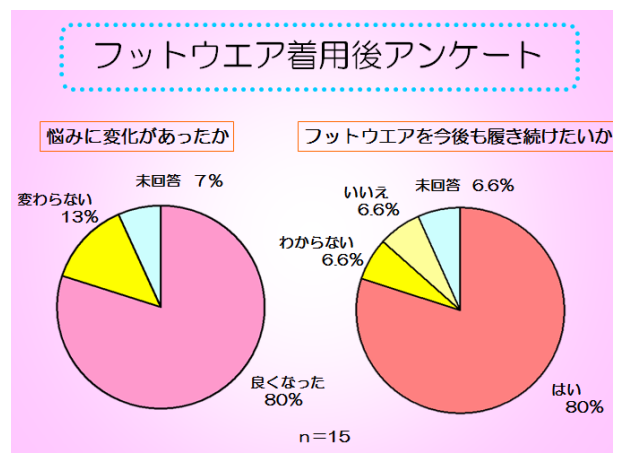
3回目: フットウェアのチェック 必要書類受け取り

4回目: フットウェアのチェック

役所・勤務先へ必要書類の提出 代金の還付申請

\*フットウェア価格: 7~9万円(フルオーダーメイド足底装具+医療用既製靴)

【結果】初回は6名の透析患者がフットウェアを作製し、その後も必要とされる患者へは随時アプローチし、専門機関にてフットウェア作製が行われている。フットウェアを作製した患者からは「とても歩きやすくなった」、「長い距離を歩いても疲れない」などの声が聴かれ、胼胝や靴擦れの予防もできている。



## 現在の取り組み

- ❁ リスク分類の再編。
- ❁ ハイケア患者に対してパウチを作成し、毎回の透析時に足の観察実施。
- ❁ 下肢に創傷ができた患者を一次的にハイケアとし、処置・観察を継続する。また、治癒後は再度創傷をつくらぬよう自己管理方法の指導を行なう。

## リスク分類

### ハイリスク

#### 末梢循環障害

- 1) ABI:0.9以下、1.3以上
  - 2) 足背・後脛骨動脈の触れが弱いor触れない
  - 3) 間欠性跛行
- \*いずれか1つがあてはまる

#### 糖尿病性神経障害

- 1) 自覚症状がある
  - 2) 振動覚の低下or消失
  - 3) モノフィラメント不可
- \*いずれか1つがあてはまる

#### 視力障害

#### セルフケア困難

### ハイケア

#### インターベーション治療歴がある

#### 下肢切断術歴がある

下肢に潰瘍がある  
\* 処置終了後4週間観察継続  
その後ハイリスクとして観察継続

4週間の観察期間中は自己管理を促す  
患者教育を徹底して行う!!

#### セルフケアが著しく困難

## 【症例①】

症例① 48歳男性 透析歴：4年  
原疾患：糖尿病性腎症 糖尿病性網膜症＋  
SPP値：右足底73 左足底95

2011. 3 フットチェック時胼胝周囲に水泡発見



## ユーバスタ塗布＋ガーゼ保護



第一、二趾間にも水泡発見し、  
ゲンタシン軟膏塗布開始



肉芽組織の形成のため中心部に  
フィブラスプレー噴霧

潰瘍下部に水泡

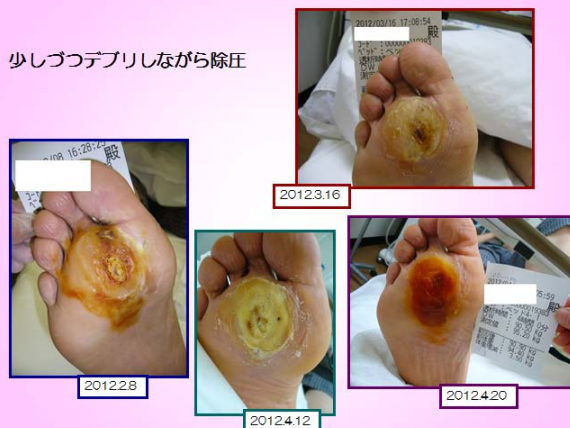
胼胝からの潰瘍を治すためにはまず除圧！！  
ということで、胼胝の皮膚をデブリ！

胼胝を柔らかくし、デブリしやすくするため  
第一、二趾間にはゲーベンクリーム塗布



ユーバスタから  
サリチル酸ワセリン塗布へ変更

少しずつデブリしながら除圧



フットウェア作製開始！

完成までは板のインソールを使用して除圧



## フットケアからフットウェア作製へ



【まとめ】まず医師を含めたスタッフ全員がフットウェアの効果や重要性を理解することで、患者への対応もより説得力の有るものになった。また院内でのフットサポートセンターによる展示会と足の相談会を5週間に渡り行った事で、興味を持った患者が参加し易くなったことが、スムーズなフットウェア導入が行えた大きな要因と思われた。

今後もフットケア及びフットウェアを並行して行い、患者の足を守るために活動を続けたい。